



武蔵国葛飾郡の農家の納屋をゲストハウスとして甦らせる

埼玉の古民家再生---築百四拾年の伝統建築を現代に再生し後世に伝える建築文化事業

北葛飾郡杉戸町で15代続くN邸。敷地は防風林で囲われ、母屋の両翼に納屋を構える伝統的な農家様式。母屋は建て替えられ東の納屋も撤去されたが、西の納屋は健在。

納屋は明治初期に建てられ築130~140年経過する。1階は土間・モルタル。2階は天井の低い収納空間。壁は土壁で内壁は租壁。外壁は漆喰塗り。雨の当たる部分は下板見貼り。基礎石が配され、その上に建物本体が載る伝統的な構造だ。

1階開口部は出入りが楽な開口2間中、木製の引き戸がついている。建物前面は深い土庇屋根が懸かり、下の中間領域は多目的な空間として利用されている。しかも屋根のリズムが美しく建物外観を魅力的にしている。

改修コンセプトは伝統的な外観と構造を活かし内部は快適な機能を提供することだ。

100年を越える建物の基礎部分は痛みが激しく抜本的な手を加え耐震性を向上させた。幸い屋根はそのまま再利用できた。

屋根を支える美しい木組み構造を見せるため、2階床面を一部取り除き、吹抜け空間とした。また外壁に最小限の窓を設けた。納屋時代の入口はリビングから庭をのぞむ掃き出し窓に替えた。直階段は折り返し階段に変更し、トイレ空間を確保。洗面所とバスも新設した。

1階中央には機能的なオープンキッチンを配し、ゲストルームでの歓談を盛り上げる。また木製の旧引き戸は開口部の木製ドアとして再利用、インテリアの調和を図っている。

